



FUKUOKA PREFECTURAL
UNIVERSITY

福岡県立大学 附属研究所

2019. 10

ヘルスプロモーション 実践研究センター

事業報告書

2018（平成30）年度

福岡県立大学 附属研究所

目次

I. 2018年度ヘルスプロモーション実践研究センター事業一覧	1
II. 地域支援事業部門	2
1. マタニティ・サロン・ムーン	2
2. 親子のひろばINたがわ	4
3. 県立大学 女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」	6
4. 性の健康に関する事業	7
5. エンド・オブ・ライフケア、多職種協働ケアカフェ	8
6. 筑豊市民大学・看護ゼミ	9
7. 健康教室（ヒーリング）	11
8. 「癒やしの空間」の管理運営	13
9. 食によるヒーリングパワー	14
10. 源流塾	16
III. 教育研修事業部門	20
1. リカレント教育（いのちを育む食の話）	20
2. 看護職へのリカレント教育事業	22
3. 地域住民の感染症予防スキルアップ事業	24

I. 2018年度ヘルスプロモーション実践研究センター事業一覧

地域支援事業部門

	事業名	実施責任者	実施回数
1	マタニティ・サロン・ムーン	鳥越郁代	5回
2	親子のひろば IN たがわ	鳥越郁代	5回
3	県立大学 女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」	鳥越郁代	9回
4	性の健康に関する事業	古田祐子	3回
5	エンド・オブ・ライフケア、多職種協働ケアカフェ	尾形由起子	4回
6	筑豊市民大学・看護ゼミ	櫛直美	10回
7	健康教室（ヒーリング）	猪狩崇	14回
8	「癒しの空間」の管理運営	猪狩崇	13回
9	食によるヒーリングパワー	猪狩崇	6回
10	源流塾	猪狩崇	1回

教育研修事業部門

	事業名	実施責任者	実施回数
1	リカレント教育（いのちを育む食の話）	鳥越郁代	1回
2	看護職へのリカレント教育事業	鳥越郁代	2回
3	地域住民の感染症予防スキルアップ事業	山下清香	9回

Ⅱ. 地域支援事業部門

1. マタニティサロン ムーン

①事業組織

事業代表者：鳥越 郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 教授）
事業分担者：石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 准教授）
安河内静子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
吉田 静（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
佐藤 繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
道園 亜希（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度） 556,000円
項目：附属研究所費（健康教育の実施）
マタニティサロンムーン受講者受講料 2,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスでは、視・聴・嗅・味覚及び皮膚感覚等を刺激することで妊婦自身が身体で感じ、気づく働きかけを通して、自らの身体への信頼や子どもを受け入れることにつながっていくことを大切にしてきた。また、他者との交流を通して新たな気づきを得て、妊婦自身が本来持っている産む力や子どもの生まれる力を引き出すコンセプトとしてクラスを妊娠中5回、出産後1回の全6回実施している。

さらに2018年度からは「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」を基盤として、発展・進化させたクラスとして「マタニティサロンムーン」を立ち上げ、妊娠中4回、出産後1回の全5回行った。参加者の満足度は100%であった。

⑤事業の内容

【プログラム】

1. 第22回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスin福岡 同窓会（計1回）
開催日時：2018年9月21日（金） 10時～13時
会場：福岡県助産師会館
参加状況：参加者10名・児6名、助産師（教員含む）8名、学生6名 計30名
2. 2018年 マタニティサロンムーン（計4回）
開催時間：10時～13時
会場：イイヅカコミュニティセンター
内容：

Lesson1 (9/21) : いのちを育む食 ～初めましてのご挨拶 野菜の力を体験～

Lesson2 (9/28) : かおりでほぐす心とからだ

～私と赤ちゃんを癒やす優しいタッチ～

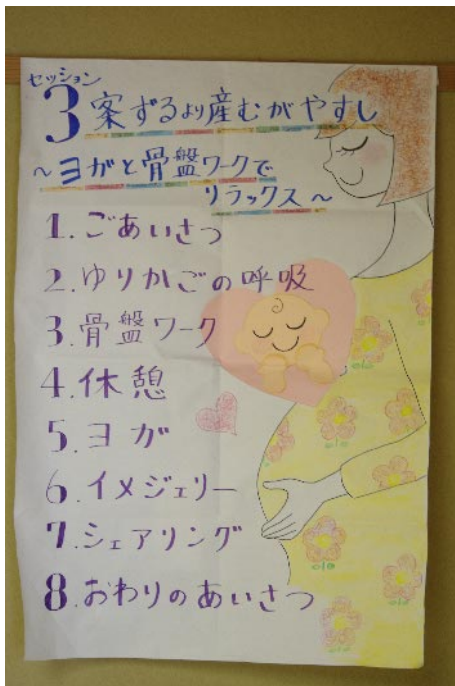
Lesson3 (10/5) : 案ずるより産むがやすし ～ヨガと骨盤ワークでリラックス～

Lesson4 (10/12) : 世界に一つだけの私のお産

～うむ力うまれる力ありのままのあなた～

参加状況 : 妊婦 6 名 (延べ 23)、助産師 (教員含む) 7 名 (延べ 17)、保健師 1 名
(延べ 3)、学生 12 名 (延べ 43)、計 26 名 (延べ 93 名)

手作りのプログラム



産道を通る赤ちゃんの様子をイメージ中



2. 親子のひろば IN たがわ

①事業組織

事業代表者：鳥越 郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 教授）
事業分担者：石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 准教授）
安河内静子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
吉田 静（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
佐藤 繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
道園 亜希（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度） 1,007,000円（田川 334,000円）
項目：附属研究所費（健康教育の実施）
受講者受講料 1,000円/1回

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

本事業は、本大学で身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスとして実施してきた妊産婦向けの健康教室（田川編）である。1996年以降、看護学部の女性看護学・助産学教員とフムフムネットワークに所属する助産師が、福岡市において大切に育み実践してきた経緯がある。2018年度は名称を「親子のひろば」と改訂し、妊婦だけでなく、子育て中の親子を対象とした地域密着型のセミナーを開催した。子育て中の親子が共に気軽に参加できるひろばの提供と、合わせて助産師による健康教育や育児相談などを行い、子育て中の母親を支援する目的で実施している。

⑤事業の内容

会場：福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター

参加状況：母親 20名（延べ 30名）一般 2名（延べ 4名）助産師（教員含む） 3名
（延べ 9名）、助産学生 1名（延べ 2名）、看護学生 10名（延べ 13名）、
合計延べ 58名

内容：

- 第1回 6/4（月）：家族のからだの SOS を見逃さない!!からだのミカタ講座
- 第2回 6/14（木）：心もからだもリラックス親子でヨガ
- 第3回 6/21（木）：エネルギーを引き出すかんたん重ね煮クッキング
- 第4回 6/25（月）：こどもと一緒に使えるアロマとタッチケア
- 第5回 7/2（月）：みんなでおしゃべり～ワイワイ語ろう！子どものこと、私のこと、家族のこと～



親子でヨガ



エネルギーを引き出すかんたん重ね煮クッキング

3. 県立大学 女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」

①事業組織

事業代表者：鳥越 郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学 教授）
事業分担者：古田 祐子（看護学部 臨床看護学系女性看護学准教授）
石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学 准教授）
安河内 静子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 講師）
吉田 静（看護学部 臨床看護学系女性看護学 講師）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 助教）
佐藤 繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 助教）
道園 亜希（看護学部 林業看護学系女性看護学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）

項目：附属研究所費 県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」 円

1人あたり5,000円（新生児蘇生法講習会Aコース）、3000円（Sコース）

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

大学における助産師（教員）の活用及び、助産学生、看護学生の教育を目的に、女性の健康相談（思春期相談、不妊相談、更年期相談など）、育児相談、母乳育児支援を行う。

⑤事業内容

不定期に大学にて原則として予約対応の形で助産師活動を行った。（相談事業：4名）満足度は100%であった。

また、新生児蘇生法講習会（23名、5回、助産師・看護師）を行った。参加者の満足度は、100%であった。

4. 性の健康に関する事業

①事業組織

事業代表者：古田 祐子（看護学部 准教授）

事業分担者：石村美由紀（看護学部 准教授）

佐藤 繭子（看護学部 助教）

道園 亜希（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）

項目：附属研究所費「性の健康に関する事業」145,000円

参加者材料費一部負担：布ナプキンワークショップ（学内）500円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

性に関する諸問題をとおして女性が自らの健康に関心を持ち、月経痛の軽減、産めるからだづくり（プレコンセプション）、十代の望まない妊娠や性感染症を予防するなど、特に女性の性の健康を向上させることを目的とする。

⑤事業の内容

当該事業は、主に相談事業、セミナー事業、出前講義の3つの事業を柱としている。

【相談事業】

「月経なんでも相談」では、月経不順、月経随伴症状、おりものの異常、婦人科疾患、乳がんなど、健康問題に関連した個別相談が24件あった。

【セミナー事業・出前講座】

セミナーは「マンスリービクス」を1回「布ナプキンワークショップ」を2回開催した。

「マンスリービクス」は、例年複数回開催していたが、実習室使用日の確保が困難な状況になったため、平成26年度より年1回実施している。

平成30年6月27日に本学5302実習室で開催し、17名が参加した。オリジナルパンフレット「しっとお？月経」を無償配布した。写真：月経随伴症状を軽減する体操の様子。



5. エンド・オブ・ライフケア、多職種協働ケアカフェ

1) 事業組織

事業代表者：尾形由起子（看護学部 教授）
事業分担者：猪狩 崇（看護学部 助教）
事業分担者：杉本 みぎわ（看護学部 助手）
事業分担者：中村 美穂子（看護学部 助手）

2) 事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 120,000円

3) 主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 ヘルスプロモーション実践研究センター

4) 事業概要

在院日数が短縮するなか、在宅医療を推進させるために、地域住民自身が終末期まで在宅療養を迎える必要があることを伝える必要である。地域住民に対し在宅療養の具体的な方法を伝え、在宅医療に対する意識を向上させることを目的としている。その参加者の要望のなかに、在宅療養の際の具体的なケアの方法を身につけたいとあり、平成29年度も「多職種連携」をキーワードに、多職種との連携、看護職同士の連携そして地域住民との連携を目的に、在宅医療を受ける地域住民のQOL（生活の質）が向上するための在宅医療・介護に関する連携に関する内容で研修を行った。

平成30年度は、地域医療に携わる医師や臨床宗教師を講師に招き、ACPや自身の死生観について議論を深めた。また、臨床倫理の視点から事例検討を行い、本人・家族の希望を中心に据えた多職種によるチームケアの在り方について研修を行った。

5) 事業の内容

①目的：地域ケアに関わる人達の意見交換をする場（ケアカフェ）を作ることにより、医療・介護関係者の顔の見える関係づくり及び地域課題の共有、解決を図る。

②対象者：医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護支援専門員、栄養士、ヘルパーなど

会場：福岡県立大学 看護学部 地域在宅看護実習室

③4回実施

第1回 7月4日 福岡県立大学 参加者62名
第2回 9月18日 福岡県立大学 参加者48名
第3回 12月21日 福岡県立大学 参加者33名
第4回 2月22日 田川市役所 参加者51名
延べ参加者人数 194名

6. 筑豊市民大学・看護ゼミ

①事業組織

事業代表者：櫛 直美（看護学部 准教授）

事業分担者：渡邊智子（看護学部 准教授）

江上史子（看護学部 助教）

廣瀬理絵（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 100,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

この看護ゼミは、地域の住民と大学教員とで連携・共同して行う、筑豊市民大学の一環であり、『ヘルシーエイジングを求めて』と題して14年間継続している。このゼミに参加する地域の方は、それぞれが健康課題をもつ50歳代から70歳代までの中高年の方であり、自らの健康づくりに興味・関心が高いのが特徴的である。しかしながら実際の生活スタイルをなかなか変容させるのは容易ではなく、やりたい気持ちが実行に結びつくことを難しいとも感じている。そこで、健康づくりにおいて一人でできないことも、仲間をつくり楽しみながら実践していくことで、健康生活のスタイルを身につけていくことができ、高齢になっても生き生きと健やかに日々を過ごせるのではないかと考えた。さらには、看護の専門職者として教員がサポートをすることで、生活に取り入れやすく楽しい健康づくりが目指せ、この点において地域の方と大学教員が連携・共同していく意義はとても大きいと感じる。

そのためにはまず、ゼミ生が自らテーマを決定し計画を立てていくことで、長年の生活スタイルを変えるためのきっかけやモチベーションの向上を図る。その上で、楽しみながら感動や感謝を体感しつつ共に実践していくことで、日常生活でも取り入れていけることを目的として今年度も行った。

⑤事業の内容

参加者数：316名

活動場所：ヘルスプロモーション実践室、看護学部4号館3階健康学習室、5号館3階実習室

活動日と活動内容

月 日	時 間	テーマ	内 容
5月26日	13:30～16:00	年間スケジュールと目標設定	各自の紹介と、今年度の健康の目標について発表。
6月16日	13:30～15:30	健やかに老いるための中高年の健康法	日々の栄養の摂り方や運動を取り入れるなど、講義と実技を通して各自の生活習慣について振り返り、考えた。

7月21日	13:30～16:00	認知症の世界を知る	認知症のDVDを鑑賞し、皆で認知症の方々が求めるケアについて考えた。MCIの進行予防について講義を行った。
8月18日	13:30～15:30	心も体も健康になる美しくなるヨガ	ヨガ体験を通して、自分の身体と向き合いリラクゼーションと身体のしなやかさを追求する。
9月15日	13:30～16:00	中高年の健康法	スポーツインストラクターより、ひざや腰の痛みを緩和しながら行う筋トレ指導や筋力測定を行った。
10月20日	13:30～15:30	ウォーキングとランチ	里山歩きをして気持ちの良い汗をかいた後にわびすけ新寮で自然食を食し、心身共にリフレッシュをした。
12月1日	13:30～15:30	救命救急	本学の教員により救命救急法として心肺蘇生法及びAEDの使用について実践を行いながら指導を受ける。いつでもどこでもできるように毎年実施している。
12月15日	13:30～15:30	健康体操	日々の生活の中で取り入れられるような効果的で手軽な運動についてレクチャーを受けてあと実践を行った。楽しく毎日行えることが大切である。
1月12日	13:30～15:30	笑いヨガ体験	笑うという情動を通して、楽しい、嬉しいといった情意を引き出す。免疫力の向上にもつながる。
2月9日	13:30～15:30	年間のまとめ	1年間のゼミを振り返り、よかったことや課題、来年に向けての目標や要望について語り合った。

7. 健康教室（ヒーリング）

① 事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部 助教）

② 事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 138,000円

③ 主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター
田川地区高齢者連絡会 「たちばな通りカフェ」

④ 事業の目的

ヘルスプロモーションとしての補完的看護技術（アロママッサージを中心）によるケア提供と、講習会によるケアボランティアの養成。

⑤ 事業の内容

平成30年月日、本学の学生たち有志が自分たちで考案したタッチケア（アロマオイルを使っても使わなくてもよい）プログラムを講習によってひろめ、受講者の技術向上とプログラム自体を完成させていく作業を行い、成果を「癒しの空間」（P.14）に参加する市民に提供した。

図1 「タッチケア」テキスト（ペア版）より

ヒーリングセラピー ナーシングタッチケアマニュアル（手） ペア版

準備 物品が揃っているか、対象者の状態確認は済んだか、施術者が中座しないよう
に同僚や家族と連絡は取ったか。

1 物品準備と姿勢とポジションの確認、ごあいさつ

オイルと自分の手にとる

量は適切か

手とオイルは温まっているか（冷たいようならオイルをとる前に温めておく）

常温で固まるオイルは十分とかし、温まっているか。

おしぼりなどのふき取り具の準備はできているか

対象の体調を確認したか

トイレなどをすませ、落ち着いてケアを受けられるか

2 ファーストタッチ

①オイルを両手で伸ばした両手で相手の手を易しく包み込み手のひらと手首までオイルを伸ばす。



②ゆっくりエフルラージュ（軽擦）で肘まで3回、オイルを伸ばしながらなでる。

ターンするときは肘をくるむようにしてターンする。

この肘がかきついているようならオイルを塗りこむような感じでケアする。

述べ参加者数は 51 名、14 回の講習を行い、11 名が技術を習得した。

また自分自身でできる手足へのタッチケアプログラムも姉妹編としてつくり、「癒しの空間」参加者に配布した。

図 2 「タッチケア」テキスト（セルフ版）より

2 ファーストタッチ



①ケアする方の手でされる方の手と腕を多指しく包むようにしてなでます。自分をいたわる気持ちで。オイルを使うときは優しくオイルを伸ばすのを兼ねて。



②ゆっくりリエフルラージュ（軽擦）で肘まで3往復、（オイルを使うときは伸ばしながら）なでる。ターンするときは肘をくるむようにしてターンする。この時ひじがかさついているようならオイルを塗りこむような感じでケアしてもよい。



戻りも同じ速度でゆっくり

8. 「癒やしの空間」の管理運営

①事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 90,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

在宅療養中の対象者支援や家族でできる健康増進の方法として、補完的看護技術（タッチケア、アロマセラピー等）を用いた支援を展開する。

⑤事業内容

2018年（平成30年度）には、昨年度に引き続き授業やサークル活動でマッサージを学んだ看護学部の2、3年生と専任教員とで13回開催（実施場所、田川市地域包括支援センター、添田町地域包括支援センター、香春町町民センター、福岡県立大学）、延べ132人の方たちに施術した。

（写真）2018年8月23日（第7回）には、香春町社会福祉協議会主催の子ども食堂「キッチン小春ちゃん」の会場に参加し、参加されている親子や社協スタッフなど子供から大人まで計23名の方々に手のアロマ・マッサージケアを施術したほか、ご希望者にはツボ押しケアも行った。

アンケート結果では有効回答数22で満足度は100%であった。



9. 食によるヒーリングパワー

①事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 180,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

在宅療養者やその家族、疾病予防に関心のある参加者に対し、食による回復過程支援の方法を講習してもらい、セルフケア能力を高める。

⑤事業の内容

2018年（平成29年度）は、「野菜や野草で身体のサビを防止する抗酸化物質を摂取する」をテーマに、年間6回開催し、のべ42名が参加した。

開催日 4月27日、7月13日、8月24日、11月2日、12月17日、2月14日

参加者全員で和洋様々なレシピを考案し作り、無理なくおいしく植物のチカラを摂取できることを確認した。

第1回 4月27日（市民5名と学生4名参加）



第 2 回 7 月 13 日 (市民 6 名、学生 5 名参加)



10. 源流塾

①事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部 助教）
事業分担者：石田 智恵美（看護学部 教授）
杉野 浩幸（看護学部 准教授）
吉田 静（看護学部 講師）
道園 亜希（看護学部 助教）
吉田 麻美（看護学部 助教）
平塚 淳子（看護学部 助手）
宮崎 千尋（看護学部 助手）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 管理運営費

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

本学教職員や地域の医療・介護職者らを対象に、教養とリフレッシュを目的とした講演プログラムを提供する。

⑤事業の内容

福岡県立大学附属研究所、ヘルスプロモーション実践研究センター主催になる、本学教職員と地域の医療福祉の多職種のスキルアップとリフレッシュを目的にした研修会、「源流塾」が今年度も開催された。

今年度のテーマは「初めての医療倫理学 実践編 カード方式で学ぶ」と題しまして、琉球大学附属病院臨床倫理部の金城隆展先生（琉球大学医学部講師、臨床倫理士）を講師にお招きし、カード方式によるロールプレイ研修にて、臨場感あふれる臨床倫理を学んだ。

具体的な模擬事例の情報をカードで取得しながら、様々な職種や本人家族などの立場を味わいながらそれぞれの立場で判断を下していく体験的な学びができた。

独善-独断に陥らないためには「1人で決めない、1度で決めない」ことが大事であることを当事者の立場で学んだ。関係者ならばだれもが出会っていたり、思い当たるような状況・場面設定に実際に自分が立ち止まって考える、大事なことに立ち戻って考え続け、そして選択をする。あたかもその場が医療現場にいるかのような臨場感あふれる研修となった。

平成30年度 源流塾 (実践編)
**カード方式で学ぶ
 実践的医療倫理**
 金城隆展 M.A. Ph.D.
 琉球大学医学部附属病院地域医療部

臨床倫理とは何か？

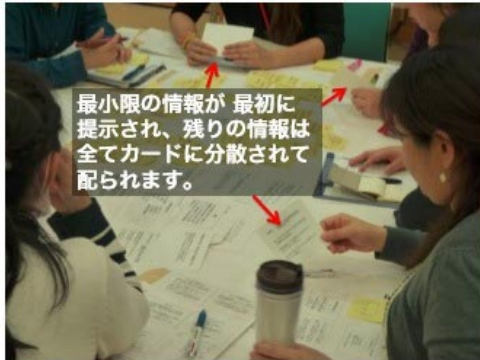
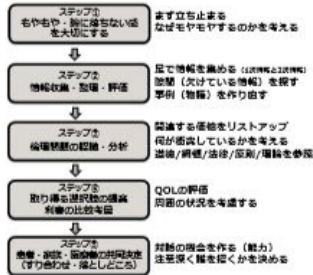
臨床倫理 床に臨む倫理

= 患者の枕元で現在進行で
 起きている事例の倫理

臨床倫理の仕方

1. 手順をふむ
2. 参照する
3. 対話・協議する

臨床倫理の5ステップ



会場には本学教員や医療関係者 18名（運営スタッフ含む）が参加した。

アンケート（有効回答）では、「大変満足」13名、「おおむね満足」1名、これからの実践に「とても役立つと思う」13名、「役立つと思う」1名、満足度100%と高評価をいただいた。

アンケート結果より（有効回答数14）

参加者 男性 2 女性 12

職種 看護師 4 教員 9 未回答 2

研修の印象 大変満足 13 おおむね満足 1

感想

- ・臨床倫理の意義について体感できた
- ・事例を通して意図的に質問を試み情報を得るということに、質問の広さがあるということまで考えたことが無かったので学びになりました。
- ・倫理という難しい内容を事例を通して体験できたことが楽しかった。
- ・どんな情報が必要かを状況から考えていくプロセスがとても面白かった。
- ・自分の考え方の癖や思い込みにも気づくことができた。
- ・何事も言葉にしていけないと（確認しないと）真実はわからんのだと思った。
- ・倫理的な対応をするには自分の思いは別にして関わる方々の立場を守る最適な対応が必要なのだと分かった。
- ・情報を得ることの大変さを体感しました。
- ・カードによる学習法を学べた。興味深かった。
- ・カード方式で情報を収集していくことが楽しかった。
- ・医療者の陥りやすいわなにはまってしまったのはくやしいでしたが、確かにそうだと思う初心を忘れないようにしようと思った。
- ・対象者の幸福のための臨床倫理を一番に考えるようにしたいと思いました。
- ・倫理的に考えたときに、同なのが一番良いのかを導き出すのに、グループディスカッションで協力して考えることができたため。
- ・質問をするにも、自分が何を問題にしているかその結果どんな展開があり得るのかを据えてしなければならないことが分かった。
- ・倫理について初めて経験する手法で楽しく学ぶことができた

日々の実践に とても役立つと思う 13 役立つと思う 1

役立つと思うところ

- ・どこで対立が起こっているか
- ・もっと他の事例でもやってみたい（専門は助産）
- ・学生へ質問する際に本当にその質問が適切か考えていきたいと思います（教員）。
- ・入り込みすぎず、本人を含めた家族ができるだけ円満に過ごすことができるように考えること。
- ・実習などで倫理的状況にかかわった時にも考えることが多い。学生教育にも活かしたいと思った。本当にありがとうございました。
- ・とてもよい研修なのでPRの方法を工夫してみても手人数の方が先生のコメントすぐ聞けて良かった。

- ・情報のとらえ方 質問の方法（広すぎない質問）
- ・医療者としての対応ばかりに目を向けがちだったことに気づいた
- ・本人の気持ちをいかに尊重しながら Care をしていくべきなのか、学ぶべきことができました。ありがとうございました。
- ・本人に情報を伝えたまで（？）本人の意思確認をきちんとする事。
- ・いろいろなお話が聞けましたが「根拠」の大切さを改めて知りました。
- ・学生の教育の中で、気づきを高めることにつながられます。考えていくことで自分の思考も高めて行けそうです。
- ・Aさん中心に考えたいと思っても、長男・長女の対立を目の前にするとその対立を解消する方向に視点が向いてしまっていることに気づいた。考え方の癖に気づくことができた。
- ・看護の現場でも教育の現場でも、あるいはそれ以外の現場でも人とかかわる実践にとって大事な思考方法を学びました。

Ⅲ. 教育研修事業部門

1. リカレント教育（いのちを育む食の話）

①事業組織

事業代表者：鳥越 郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 教授）
事業分担者：石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 准教授）
安河内静子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
吉田 静（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
佐藤 繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
道園 亜希（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度） 520,000円
項目：附属研究所費（看護職へのリカレント教育）
受講者受講料 一般 2,000円、学生 500円、高校生以下無料

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

「いのちを育む食の話」では、助産師として母子や家族の健康を支援する前に、学生の現在の食事や自分へのいのちを繋ぎ、支えてくれた食の伝統を振り返り、内省し、未来へのいのちを繋げていく学生や一般を対象に講演を行う。講演後には講師、参加者皆で意見交換を行い、自分自身の食の在り方を考える時間とする。

講師の南清貴氏は、一般社団法人日本オーガニックレストラン協会代表理事を務めており、国内外でフードプロデューサー育成講座を展開している他、自宅で農業を実践し、とれた野菜を経営するレストランで提供するといった幅広い活動を行っている。看護者が南氏の講演を聴くことによって、看護者自身や家族の食事を振り返り、未来に繋げるための具体的な食の実践やそのノウハウを学ぶ機会として企画した。

⑤事業の内容

テーマ：いのちを育む食の話 食が変われば人生が変わる
講師：南清貴氏（一般社団法人日本オーガニックレストラン協会代表理事）
日時：2018年6月30日（土） 13時～16時
会場：福岡市男女共同参画センターアミカス 4階ホール
参加状況：一般 148名・看護師 10名、保健師 1名、助産師 3名 計 162名
内容

生物が生きていく上で「食」は欠かせない行動である。また自身の生命だけでなく、未来の子どもたちへ健康を受け継いでいくためにも自らが口にする食べ物を意識する必要がある。日本人の食に関して、昭和と平成とで大きく変化したこととし

て「食べなかった物を食べるようになった／食べていた物を食べなくなった」
「調理の場が『家庭』から『工場』へ移行してきた」ことを挙げられた。

特に日本人の食の欧米化が進み、様々な疾病の発症に影響を及ぼしていることは多く報告されている。また「食の安全」叫ばれるようになり、工場で食を管理される機会が増加した。それによって食中毒予防など人間の健康が護られる一方で食品添加物が多く使用されるようになり、健康へ影響が懸念されている。そこで消費者自身が日常口にする食物の材料にどのような物が含まれているのか意識することが必要であり、販売業者や行政も消費者が理解しやすいように情報公開を行う必要がある。

また「身土不二」の通り、地球上の人々が生まれ育った地の食物を口にして生きてきたように、日本にも伝統食として祖先から受け継いできた食文化がある。特に日本の伝統食には海外の人たちが注目していることから、豊富な食にあふれた現代社会だからこそ日本の伝統食を見直し、未来に繋げていくことが重要である。さらに「平均寿命」と「健康寿命」には約10年の差があると言われている。人間が病気になることなく健康に過ごし、生命の終わりを迎えられるためにも食の持つ力を知り、自らの生活を見直すことは大変重要である。

多くの年齢層の方が参加してくださいました



2. 看護職へのリカレント教育事業

①事業組織

事業代表者：鳥越 郁代（看護学部 教授）
事業分担者：佐藤 繭子（看護学部 助教）
：小林 絵里子（看護学部 助教）
：道園 亜希（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）
項目：附属研究所費 円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

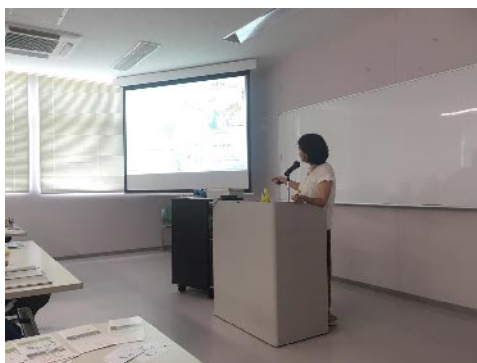
④事業の目的

今年度から助産学領域におけるリカレント教育として発展させることを目的として事業化している。本年度は助産師だけではなく、看護職へのリカレント教育として、セミナーを開催した。

⑤事業の内容（1事業、2回、参加者：103名）

【インドにおける母子保健支援活動】

日時：平成30年7月31日（火）10:00～12:00
参加者：39名（看護師19名、助産師20名、一般1名、うち卒業生10名）
場所：福岡県立大学附属研究所 大セミナー室
講師：たんぼぼ母乳育児相談室院長・NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会 代表理事 三浦孝子氏
内容：2006年からインドのへき地農村婦人の保健教育活動に携わっている三浦氏より、JICA事業でもある北インドの農村栄養と母子保健改善プロジェクトの内容と現状について講演をいただいた。参加者の満足度は100%であった。



【母乳育児支援に関する講演】

日時：平成30年8月1日（水）10:30～15:30

参加者：64名（看護師15名、助産師45名、保健師1名、一般3名、うち卒業生12名）

場 所：ももちパレス 小ホール

講 師：たんぽぽ母乳育児相談室院長・NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会
代表理事 三浦孝子氏

内 容：講演は2演題あり、「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」と
私たち～知ろう歴史、学ぼう最新情報、話し合おう「国際規準」～と、
「母乳育児支援デバイスの選び方と使い方」であった。演習を交えた講演
は好評で、参加者の満足度は100%だった。



3. 地域住民の感染症予防スキルアップ事業

①事業組織

事業代表者：山下 清香（看護学部 准教授）
事業分担者：尾形由起子（看護学部 教授）
：小野 順子（看護学部 講師）
：手島 聖子（看護学部 助教）
：檜橋 明子（看護学部 助教）
：中村美穂子（看護学部 助手）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）
項目：附属研究所費 46,000円

③主催団体・共催団体

共催：福岡県立大学 附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

地域住民の感染症防止対策には、住民一人ひとりの意識や行動の変容と健康づくりを推進する地域づくりが必要である。そのためには個人や単一の組織・機関の努力に止まらず、地域ぐるみでスキルアップに取り組む教育研修時事業が鍵となる。本事業で、学生と住民、関係職種・関係機関が協働で感染症防止スキルアップ研修を通じ、地域住民のスキルアップを推進することを目的とする。また、教育研修における効果的な方法について検討する。

⑤事業の内容

- ・地域住民の感染症予防スキルアップ研修会（計9回実施）
日時：5月17日（木）、6月14日（木）、7月5日（木）、7月12日（木）、
10月4日（木）、10月30日（火）、11月1日（木）、12月15日（土）、
1月9日（水）
延べ参加者 106名

福岡県立大学 ヘルスプロモーション実践研究センター運営部会 部会員

石田 智恵美（ヘルスプロモーション実践研究センター長 編集委員長 教授）
杉野 浩幸（編集委員 看護学部 准教授）
吉田 静（看護学部 講師）
猪狩 崇（看護学部 助教）
道園 亜希（看護学部 助教）
吉田 麻美（看護学部 助教）
平塚 淳子（看護学部 助手）
宮崎 千尋（看護学部 助手）

福岡県立大学 附属研究所
ヘルスプロモーション実践研究センター事業報告書 2018年（平成30）年度

2019年8月31日 発行

編集・発行：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター
〒825-8585 福岡県田川市伊田 4395
Tel:0947-42-2118 Fax:0947-42-6171
<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/research/>
